

解体工事・アスベスト除去の両軸で 新たな価値を創造するプロ集団

代表取締役

與那覇翔

×

タレント

つまみ枝豆



株式会社 琉球 ZERO-ONE

沖縄県沖縄市上地 3-23-30

沖縄県沖縄市を拠点に、構造物・内装材の解体工事やアスベスト調査・除去・無害化を主軸に、塗装工事、リフォーム工事を手掛ける『琉球 ZERO-ONE』。同社を率いる與那覇社長は真摯な姿勢で堅調に事業を推進し、多くの信頼を獲得している。本日は、タレントのつまみ枝豆氏が社長に様々なお話を伺った。

——早速ですが、與那覇社長が事業を立ち上げられるまでの歩みからお聞かせいただけますか。

沖縄で生まれ育ちました。子どものころはスポーツに打ち込んでいましたね。学業修了後、社会人としての第一歩は建設業界で踏み出しました。鷹職をはじめ様々な仕事に携わる中で技術を磨き、キャリアを蓄積していったんです。それから解体工事業を手掛ける会社に移ることに。そちらで経験を積み、友人と共に解体工事業で独立しました。それが27歳ぐらいの時ですね。



——お若くして独立を果たされましたね。順調に進みましたか。

代表職は友人が務め、私がサポートするというかたちで事業を立ち上げたのですが、当初は苦勞が多かったですね。若い上、何の実績もない私たちですから、営業活動に行けば門前払いされることもありましたが（苦笑）。けれども常に「ここで逃げたらだめだ」と自分自身を鼓舞して、試行錯誤を繰り返していったんです。すると徐々に仕事をいただけるようになり、コツコツ実績を積み重ねていくうちに信用を得ることができましたね。

——社長の直向きな努力を見てくれている人が多くいたのでしょうか。それにしても、苦しい状況でも投げ出さずに進み続けてこられたのは立派です。当時のご経験が現在においても大きな糧となつて

guest interviewer



「與那覇社長が『琉球 ZERO-ONE』を立ち上げる前に在籍していた勤務先からついてきてくれたスタッフの方もいるそう。前勤務先の社長とも良好な関係が続いているとのことで、社長のお人柄の良さが窺える対談でしたね。これからもぜひ頑張ってください！」 つまみ枝豆・談

いるのではないのでしょうか。

そうですね。あの時の努力があったからこそ、今につながる人脈を築くことができたと思うんです。ありがたいことに、お客様が別のお客様を紹介して下さることもありました。

——それは社長たちの確かな技術力が評価されたからでしょう。

やがて「自分の実力がどこまで通用するか試してみたい」と思うようになりましたね。そこで、改めて自身の手で事業を立ち上げることを決意したんです。これまで共に事業を手掛けてきた社長も、快く承諾してくれました。「何かできることがあれば協力するから」と後押ししてくれ、嬉しかったですね。そして社長のもとを離れ、『琉球 ZERO-ONE』を立ち上げ、現在に至ります。

——当初はお一人でスタートされて？

はい。お客様の紹介で次第に仕事いただけるようになった一方、積極的に新しいお客様の開拓を進めていったことで、スタッフや協力会社の数も増やしていきました。現在では、協力会社のメンバーを含めるとスタッフは総勢50名ほどの体制になっています。昨年には法人化を実現することができました。

——順調なご様子が窺えます。社長がずっと貫いてこられた「直向きな努力」が実を結んだのでしょうか。

ここまでこれたのは、支えてくれる人に恵まれたことが大きいと思うんです。たとえば、何か分からないことがあればそのままにするのではなく、「分からないので、教えてもらえませんか」と正直に頭を下げるのが私のモットーです。そんな私のために、嫌な顔一つせずに丁寧に教えて下さる方が大勢いらっしゃるんです。そういった方々のお陰で



今があると感謝しています。

——素晴らしいです。社長のその真摯な姿勢こそが、多くの信頼を紡いでいるのだと思いますよ。ところで現在御社では、解体工事業をメインにされているのでしょうか。

解体工事とアスベストの調査・除去・無害化の二つの事業を主軸に据えています。実はここ沖縄では、解体工事とアスベストの除去を別々の業者に頼まなければならないケースが大半です。当社のように双方をワンストップで手掛けることができるのは大きな強みになっていますね。今はありがたいことに多くのご依頼をいただいております、限られた人員の中

で、一つひとつのニーズにできるだけお応えできるよう尽力しています。

——建設業界は特に人材不足が顕著とされていますし、ご苦勞もおありかと思えます。では最後に、今後の展望についてお聞かせ下さい。

今いるスタッフたちは皆、私の思いや考え方を理解してくれている者ばかり。だから、私が逐一口に出さなくても進んで動いてくれるんです。私はそんなスタッフ一人ひとりを信頼していますし、これからもスタッフたちと共に、さらなる高みを目指して突き進んでいきたいですね！

(2019年3月取材)

「0」から「1」へ

▼「0から1を創るのは、難しい。1から2を作ることは、易しい」——。新大陸を発見したことで知られる冒険家クリストファー・コロンブスは、こんな言葉を残している。與那覇社長は、友人と共に事業を立ち上げた経験を通じて「0から1を創ること」の難しさを痛感した。何の実績もなければ、信用もない。そんな“ゼロ”の状態から勇猛果敢に挑戦し、道を切り拓いてきた社長。そうして確かな自信を持たれたことで、自らの手で事業を手掛けていくことを決意したという。そうして立ち上げた会社を、『琉球 ZERO-ONE』と名付けた。「0から1をつくることで、新しい価値を自分たちの手で創造していきたい」——社長のそんな思いが込められている。その思いを体現するべく、社長はこれからもスタッフたちと共に挑戦を続けていく。

